

令和4(2022)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

| 重点目標 | 現状と課題 | 評価項目 評価指標 | 具体的方策 | | 経過・達成実績 | 達成度 | 次年度の課題と改善方向 | |
|----------|--|--|-------------------------|--|---|---|---|--|
| | | | 取組項目(○)と内容(・) | | | | | |
| 2 入学生の確保 | <p>(現状)</p> <p>○近年の入学生はH31が59名、R2が70名、R3が67名と定員80名を下回っていたが、R4は80名となっている(農業生産学部 74名/70名、いちご学科 6名/10名)。</p> <p>○R4の受験者は98名(農業生産学部 89名/70名、いちご学科 9名/10名)であった。</p> <p>○R3の受験者は76名(農業生産学部64名/70名、いちご学科12名/10名)であった。</p> <p>○農業生産学部のR4年度生募集においては、計150名がオープンキャンパスに参加し、出願者は95名、入学者は74名となり定員を上回った。</p> <p>○いちご学科のR4年度生募集においては、計58名がオープンキャンパスに参加したものの、入試出願者は11名、入学者は6名であった。</p> <p>(課題)</p> <p>●高校生、また特にいちご学科に関しては大学生や社会人、農業者等に対して、農大の存在や特徴を認知してもらう必要がある。</p> <p>●就農を目指す応募者の増加を図り、入学後の就農へのサポートも適切に行い、就農率向上につなげる必要がある。</p> <p>●「いちご学科」について、農業振興事務所や農業関係団体等との連携の確立とともに、高校生、大学生、社会人等幅広い年代層への積極的な広報活動等により、学生の確保を図る必要がある。</p> | <p>全体応募者</p> <p>80名以上 農業生産学部入学者</p> <p>70名以上</p> <p>農業経営学部 (いちご学科)入学者</p> <p>10名以上</p> <p>オープンキャンパス 全体参加者数</p> <p>160名以上</p> | (1)オープンキャンパス等による農大の理解促進 | | <p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・オープンキャンパスは、新型コロナ感染防止のため、規模縮小・時間短縮して実施するが、各回ごとにプログラム等を工夫し、5月～1月の間で6回実施し、より多くの参加者の確保に努める。</p> <p>・第1回はいちご学科のオープンキャンパスを早期の5月に実施し、7月の入学試験のPRに努める。</p> <p>・第2回、第3回は参加者の利便性を考慮し、日曜日の開催として農業生産学部と農業経営学部(いちご学科)の合同でのオープンキャンパスを実施する。</p> <p>・農大ホームページにオープンキャンパス開催に係る情報を適時適切に掲載する等、積極的な情報発信を行っていく。</p> <p>・農大ホームページにオープンキャンパス開催に係る情報を適時適切に掲載する等、積極的な情報発信を行っていく。</p> <p>・ポスター・チラシ等を早期に作成のうえ、関係機関等に配付し、オープンキャンパス開催のPRに努める。</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・体験会を農業生産学部の第2回、第3回(一般高校向け)開催時に取り入れる。</p> <p>・いちご学科については、いちごの生育ステージに合わせて、生産学部(一般高校向け)との同時開催に加え、春期、秋期、冬期の計5回開催する。</p> | <p>・オープンキャンパスは5月15日、6月10日及び19日、8月28日の4回開催。</p> <p>・いちご学科オープンキャンパス5月15日(日)に実施して8名の参加者があり、7月入試受験者のうち5名がオープンキャンパス参加者。</p> <p>・6月19日と8月28日のオープンキャンパスは、それぞれ37名、50名の参加者があり、いちご学科と合同で日曜日に開催。</p> <p>・農大ホームページにオープンキャンパスの開催情報を早期に掲載。</p> <p>・県内外の高校、各市町、農振事務所、JA各支店、みのり等の販売店に5月上旬の早期に配布し広く周知。</p> <p>・県内農業高校の先輩学生との意見交換会を開催し好評。</p> <p>・第2回、第3回のオープンキャンパスに体験会を実施して好評。</p> <p>・いちご学科のオープンキャンパスは、参加者の利便性を図り生産学部と同日開催。</p> | <p>計 A</p> <p>77名/80名 =96%</p> <p>生産学部 A</p> <p>64名/70名 =91%</p> <p>経営学部 A</p> <p>13名/10名 =130%</p> <p>A</p> <p>186名/160名 =116%</p> | <p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・いちご学科オープンキャンパスを10月16日(日)と1月22日(日)に開催し、多くの受験者の確保を図る。</p> <p>・先輩学生との意見交換会等の好評を得たプログラムは引き続き実施していく。</p> <p>・日曜日に開催し多くの参加者を得たので引き続き実施していく。</p> <p>・農大ホームページを適宜、最新の情報へ更新しオープンキャンパス開催情報を早期に周知する。</p> <p>・ポスター・チラシを早期に作成・配付し少しでも早く開催のPRを行う。</p> <p>・1、2年生も参加し多くの学生を受け入れる。</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・いちご学科オープンキャンパスは、今後、生育ステージに合わせて10月と1月に開催予定。</p> <p>・体験会等の好評を得たプログラムについては、引き続き実施していく。</p> |
| | | | (2)高校、JA等への農大PRの推進 | | | | | |

令和4(2022)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

| 重点目標 | 現状と課題 | 評価項目 評価指標 | 具体的方策 | | 経過・達成実績 | 達成度 | 次年度の課題と改善方向 |
|------|-------|--------------|--|--|--|-----|--|
| | | | 取組項目(○)と内容(・) | | | | |
| | | | <p>○JAへの訪問(いちご学科) いちご学科で実施する産地調査等においてJAを訪問する際、学生自らが学科のPRを併せて行う。</p> <p>○4年制大学卒業予定者や社会人に対するPR(いちご学科) ・経営技術課と連携し、県HPやSNSの他、就農情報サイト、各種メディアによる取材対応などにより、いちご学科の周知を図る。</p> | | <p>・6/21～23、7/8、7/13に職員が県内各JAを訪問し、いちご学科のカリキュラムや特徴を説明、農家後継者等への紹介を依頼。 ・産地調査では、学生が就農予定地を所管するJAで自己PRを実施。</p> <p>・下野新聞、日本農業新聞、栃木放送、とちぎTVへの取材対応の他、学生によるしもつけの心への投稿、Webサイト「AGRI PICK」における広告記事掲載などを実施。</p> | | <p>○JAへの訪問(いちご学科) ・引き続き、職員、学生によるPRを実施</p> <p>○4年生大学や社会人へのPR ・引き続き県HP、SNS、各種メディアを活用した周知活動を実施。</p> |
| | | | (3)農大の魅力発信の工夫 | | | | |
| | | | <p>○HPの充実 ・県内外から多くの応募者を確保するため、農業生産学部、農業経営学部(いちご学科)、研修科の情報をきめ細やかに発信し、広くPRを図る。</p> <p>○各種広報誌等でのPR ・季刊誌における学部紹介や学生PR等の誌面充実にも努めるほか、外部広報誌等への新規開拓を図る。</p> <p>・県広報課事業等を活用し、関係団体や金融機関等民間に学生募集のポスター掲示やリーフレット設置を依頼し、積極的な広報活動を行う。</p> <p>○マスメディアの活用 ・新聞社や放送局等にイベントや学生募集等の情報発信を積極的に行い、掲載や放送を通して農大のPRを図る。</p> <p>○その他広告物や学校生産物等によるPR ・農大をはじめ各公共施設、また事業やイベントにおいて、広告物や看板等の設置を検討し、可能なものから予算の確保も含め、順次実施していく。</p> <p>・民間施設や各種イベント主催者との協賛等、農大の生産物販売を通して学生と生産物等農大と学生募集のPRの機会拡充の検討を行い、協議が整ったものから積極的に実施していく。</p> | | <p>・HPを適宜更新し、タイムリーな情報提供を実施し、広くPR。</p> <p>・季刊誌「しもつけの心」に投稿(R4年度投稿結果:4回×2名、全8名)してPR。</p> <p>・ポスター、チラシを5月に作成・配布を実施。</p> <p>・いちご学科の取り組みをTVや新聞等マスコミに対し積極的に情報発信。</p> <p>・国体と障害者スポーツ大会において、歓迎飾花(デザイン飾花)として花き専攻学生が栽培した花苗を、縦3.6m×横5.3mの飾花台に各回2,400鉢設置。さらに農大紹介コーナーを設置。 ・カインズホームにて生産物販売(計5回)を通じて農大のPR実施。</p> | | <p>○HPの充実 ・今後もHPを適宜更新し、タイムリーな情報提供する。</p> <p>○各種広報誌等でのPR ・引き続き、「しもつけの心」に就農意欲の高い学生の原稿を投稿していく。 ・農業関係機関に対して、外部機関誌を利用しPRを図っていく。</p> <p>今後、ポスター・チラシの配布をいちご学科だけでなく、生産学部のポスター・チラシを合わせて配布していく。</p> <p>○マスメディアの活用 ・引き続き機会があれば、情報発信に努めていく。</p> <p>・各種イベントに生産物販売を通して学生募集のPRに努める。</p> |
| | | | (4)入試方法の改善 | | | | |
| | | | <p>○出願期間等の改善 ・他の農業系大学のスケジュールも見ながら、学生募集の門戸が拡げられるよう、最終の後期試験の出願期間を前期試験の合格発表後に設定する等、出願者をより多く確保できるよう努める。 いちご学科については7月に入学試験を実施して早期に学生の確保に努めるとともに、12月と2月にも入試を実施して受験チャンスを増やしていく。</p> | | <p>・一般後期試験を前期試験の合格発表後に設定。 ・いちご学科入試を7月(1回目)、12月に実施(2回目)し、1回目6名、2回目7名と、定員を超える13名を確保した。</p> | | <p>○出願期間等の改善 ・前期試験結果発表後に一定の期間を設けて後期試験出願までに余裕を持たせる。</p> |